

さいたま市文化財時報

かや 榎りぼーと

第 34 号

さいたま市出身の学者たち ～指定文化財で読み解く「さいたまの『学び』」～

先日、宇宙から無事帰還した若田光一さんや俳優のSさん、歌手のHさん、作家のDさん、ダンサーのSさんを始めとして、多くのジャンルでさいたま市生まれの人や縁を持つ有名人が活躍しています。

今回は、指定文化財に見るさいたま市出身の学者にスポットをあてて、「さいたま市の『学び』」について紹介してみたいと思います。

📖 儒学 (Confucianism) 📖

「岩槻に過ぎたるものがふたつある 児玉南柯と時の鐘」と謡われた児玉南柯（1746～1830）は岩槻藩の儒学者。甲州で生まれた南柯は、その後岩槻藩家臣児玉氏の養子となり、明和8年（1771）には藩主の推薦で昌平坂学問所に入學しています。安永9年（1780）には藩の領地であった上総千倉で清国船「元順号」の漂着事件が起こり、現地責任者として活躍しました。この時の顛末を著したのが『漂客紀事』で、この清国船への始末が児玉南柯の名声を世に知らしめることとなりました。儒教に基づく村民教化のための著作である『徳教篇』の版木とともに、「『漂客紀事』及び『徳教篇』版木」（市指定、歴史資料）として児玉南柯の菩提寺である浄安寺（岩槻区本町）に伝わっています。天明8年（1788）、部下の起こした罪のため藩から謹慎を命じられ、城下の裏小路に屋敷を与えられて蟄居、そこに私塾「遷喬館」（県指定、史跡）を創設し、藩士等の教育に当たりました。後に遷喬館は岩槻藩の正式な藩校となり、明治維新まで儒教を中心とした漢学教育が実施さ



▲児玉南柯が創設した岩槻藩の藩校「遷喬館」



▲児玉南柯の自画像

れ、四書五経などの講義が行われました。この遷喬館での教育や藩政のこと、自身の身の事など40年分を漢文体で著したのが「児玉南柯日記及び関係書籍」（県指定、古文書）。『岩槻市史』に全文翻刻されています。また、「館喬遷」（ママ）の扁額や「かきなら須 琴越ことと裳 おもわねと 玉可ひか耳に き具楚たのしき」という和歌とともに自画像を描いた資料、遺品類が「児玉南柯遺品」（市指定、歴史資料）として市立岩槻郷土資料館に残されています。南柯は文政13年（1830）に85歳で病没。法名は「南柯斎槐譽一夢居士」。浄安寺にある墓には正面に「無量壽佛」、右側面に「南柯斎槐譽一夢居士」と刻まれています（「児玉南柯の墓」、市指定、史跡）。

西沢曠野は寛保3年（1743）現中央区に生まれ、江戸へ出て儒学者細井平州の門人となり、帰郷後漢学塾を開いて近在の師弟教育にあたりました。温厚で、天明の飢饉の際には私財を投げ打って窮民を救済し、後世「与野聖人」と慕われたといわれています。文政4年没し、長伝寺（中央区本町東）に葬られました（「西沢曠野の墓」、市指定、史跡）。表には「曠野西澤翁之墓」と刻まれています。

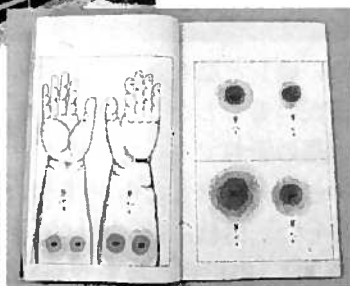


▲西沢曠野の墓

医学 (Medical science)



▲旧高野家離座敷



▲高野家書籍

赤山街道と呼ばれる道筋にほぼ面して「旧高野家離座敷」（市指定、建造物）が残っています。この座敷の主が高野隆仙（1811～1859）です。隆仙は医師を生業としましたが、蘭学・南画・茶道・俳諧などに通じた多才の人物でした。彼の交流の場としてこの離座敷が使われたものと考えられます。また、師と仰いだ高野長英（1804～1850）逃亡の際には、この座敷に数日間置ったといわれています。

高野家には江戸時代から明治時代にかけての医学（蘭方・漢方）・文学・理学・漢籍・茶道など多岐にわたる書籍が伝わり、その中には隆仙に関わるものも多く含まれています。一括して「高野家書籍」（市指定、典籍）として指定され、市立浦和博物館に保管・展示されています。

天文学 (Astronomy)

江戸時代の後半、寛政元年（1789）鈴谷村（現中央区）に生まれた稲垣田龍（～1861）は、天文暦学、気象、占星術などを研究した学者です。中でも地動説やニュートン力学を始めとする西洋の新しい学説にいち早く共鳴し、太陽系や各惑星の動きを説明した「地転新図」などを描いています（「稲垣田龍関係史料（自然科学関係）、市指定、古文書」）。この図を見ると、昨今話題の皆既日食の仕組みもよく分かります。その墓は、「稲垣田龍の墓」（市指定、史跡）として妙行寺（中央区鈴谷）境内に残っています。

数学 (Mathematics)

関孝和で有名な和算家。彼らが自分で解決した算問（数学の問題）を額に描いて社寺に奉納したのが「算額」で、日本全国で800面以上、市域では7面が確認されています。指定文化財としては江戸時代後半の享和元年（1801）の「愛宕神社の算額」（見沼区御蔵、市指定、有形民俗）が市内最古で、「天保十一年銘秋葉神社算額」（西区中釘、市指定、歴史資料）、嘉永5年（1852）再建奉納の「関流算額」（桜区西堀氷川神社、市指定、歴

史資料)、慶応2年(1866)日枝神社の「正野友三郎一門奉納の算額」(中央区円阿弥、市指定、歴史資料)、明治14年重殿社(緑区中野田)へ奉納された「中西流算額」(市指定、歴史資料)があります。その内容は、いずれも極めて難解で、例えば「三角形に内接する甲乙丙の3種類の円があって、甲の直径が20寸の時に乙円の直径は…」「外円に内接する大円1、小円2があって、それを隔てる直線が4寸8分、小円の直径が1寸8分の時、大円の直径は…」などという問題



▲寺子屋の授業風景も描かれる秋葉神社の算額

です。競って難問を解き、自慢げに社寺に奉納した和算家たちの姿が目浮かぶようです。なお、秋葉神社の算額に描かれた授業風景の中にも見えますが、和算の授業には「算盤」や「算木」を使用しました。その算木が「綿貫家の算木及び関係文書」(浦和区個人、市指定、歴史資料)として残っています。長さ3.7cm、木口10.6cm角で、プラスの数を表す赤い算木とマイナスの数を表す黒い算木がそれぞれ100本あります。同家の初代が大間木村(現、緑区)から養子に入る際に持参したものと伝わり、当時活発だった大間木村の文化活動の一端として「算木」による計算技術の習得も含まれていたことが推測できる資料でもあります。

書 (Calligraphy)

室町時代末期の能書家として名を馳せたのが、国昌寺(緑区大崎)二世の大雲文竜。大崎周辺の生まれといわれ、太田窪の守光院(南区)や染谷の常泉寺(見沼区)、中野田の明照寺(緑区)などの開山や住持となった僧です。宮中に参内し、後陽成・後水尾両天皇に指南するほど書に秀でており、国昌寺には「大雲文竜書大弁才尊天号」(市指定、書跡)が残されています。天地約35cmほどの小さなものですが、中央に「大辨才尊天」、右に「大日輪」、左に「大月輪」と行書に近い書体で書かれています。中世の禅僧の筆力が偲ばれるもので、筆致は極めて剛健です。なお、大雲文竜の墓は国昌寺境内に所在し、また、大雲文竜の書は安龍寺(鴻巣市)に楷書の「仁義礼智信五常金言」が、清岩寺(群馬県邑楽郡邑楽町)には草書の「水色幽玄」がそれぞれ現存しています。



▲剛健な大雲文竜の書

私塾・寺子屋 (Cram school)

小泉蘭齋は文化7年(1810)の生まれで、父は近江三上藩士。蘭齋38歳の時に浦和に移り住み、寺子屋を開業したといわれています。非常に評判のいい師匠で、後に浦和郷学校の教師となりましたが、開校の翌年に52歳で病死しています。没後、教え子たちが拠金して廓信寺境内に墓碑を建立しています(「小泉蘭齋墓碑」市指定、歴史資料)。一方、岩槻藩医篠崎氏が藩の儒学者児玉南柯の援助により自宅内で庶民への教育を行ったのが「郷学戩穀堂」で、開設を記念して文化9年に堂の傍らに建立されたのが高さ129cmほどの「郷学戩穀堂の碑」(市指定、史跡)。開設の経緯が漢文体で彫られています(個人宅)。寺子屋での授業風景を描いたものは県内でも珍しく、市内には桜区道場の天満宮にある「天満宮絵馬」(市指定、有形民俗)が知られます。幅約130cm、高さ約65cmの額内に、菅公(天神)と寺子屋師匠夫妻、14人の読み書きをする男女児を描いています。寺子屋での教科内容や方法、道具類まで知ることができる教育史の格好の資料で、裏書により、付近の寺子屋師匠吉岡範善が安政4年(1857)に天満宮に奉納したことが分かります。なお指定文化財ではありませんが、市立浦和博物館には、明治32年に寺子屋が建立した吉岡範善の頌徳碑が残されています。

※上記の文化財の中には個人所有のもの、常時公開していないものなども含まれています。見学の際には、事前に所有者の了解を得るなど、マナーを守っていただくようお願いします。

さいたま市内指定無形・無形民俗文化財の公開カレンダー（平成21年10月～平成22年1月）

天候などにより日程が変更されることもありますので、詳しくはさいたま市の Web ページをご覧ください。見学無料。

田島の獅子舞（市指定）

10月4日(日)
田島氷川社（桜区田島4-12-1）15時～
四谷稲荷社（南区四谷3-7-34）16時30分～
3頭の獅子が太鼓と笛の音に合わせ、優美に舞います。秋の祭礼は四谷稲荷社と二箇所で行います。

南部領辻の獅子舞（市指定）



10月11日(日)13時～
鷲神社（緑区大字南部領辻2914）
別名「竜頭の舞」といわれ、起源は平安時代とされている獅子舞です。

岩槻の古式土俵入り（釣上地区）（国指定）

10月18日(日)
13時45分～
釣上神明社（岩槻区大字釣上220）
男子の健康と成長を願い、子供たちが化粧回しをまとい、土俵入りを奉納します。



第七回さいたま市郷土芸能のつどい

11月21日(土)13時～16時
大宮ソニックシティ小ホール（大宮区桜木町1-7-5）
「駒形の祭ばやし」等、市内の無形・無形民俗文化財5団体が披露します。

一山神社冬至祭（市指定）

12月22日(火)14時～ 一山神社（中央区本町東4-10-14）
別名「柚子まつり」と呼ばれる冬至祭で、1年間の穢れを祓い、新年の無病息災を願う火渡りを行います。

指扇の餅搗き踊り（市指定）

12月31日(木)23時30分～
五味貝戸自治会館（西区指扇291）
毎年、年末に行っている、万作踊りと餅搗き踊りを公開します。

日進餅つき踊り（市指定）

1月1日(祝)0時～ 日進神社（北区日進町2-1194）
毎年、年始に行っている、餅つき踊りを公開します。年明けとともに、深夜に、開始します。

木遣歌（市指定）【さいたま市消防署出初式】

1月10日(日)10時～
会場 大宮消防署（大宮区天沼町1-893）
「木遣歌」とともに、鳶組合が華麗なはしご乗りを披露します。

最新出土品展 無料

平成20年度を中心に市内各所で発掘した出土品や、調査の様子を展示します。（会場によって展示資料が若干変わります）

会場	期間	時間
さいたま市立博物館 （大宮区高鼻町2-1-2）	平成21年 9月12日(土)～9月27日(日) 休館日 14日(月)、24日(木)、25日(金)	9時 ～ 16時30分
プラザノース （北区宮原町1-852-1）	平成21年 10月1日(木)～10月7日(水) 期間中無休	9時 ～ 21時30分
プラザウエスト （桜区道場4-3-1）	平成21年 10月8日(木)～10月14日(水) 休館日 13日(火)	9時 ～ 17時

会場	期間	時間
浦和区役所 展示スペース （浦和区常盤6-4-4）	平成21年 10月15日(木)～10月21日(水) 閉庁日 17日(土)、18日(日)	8時30分 ～ 17時15分
プラザイースト （緑区中尾1440-8）	平成21年 10月22日(木)～10月28日(水) 休館日 26日(月)	9時 ～ 21時30分
岩槻本丸公民館 （岩槻区本町2-2-34）	平成21年 10月29日(木)～11月4日(水) 期間中無休	9時 ～ 17時